令和6年度農林水産技術会議結果概要

畜産技術センター

開催日	令和7年3月3日	開催場所	畜産技術センター
部会名	研究課題設定部会		
評価課題	開放型畜舎における臭気抑制技術の開発		
評価委員	畜産環境整備機構 畜産環境技術研究所 主任研究員 神奈川県養豚協会 常務理事		
評価概要	<p>○臭気発生状況調査の妥当性では、臭気指数相当値ではなく、臭気指数を用いた方がよい。</p> <p>○臭気抑制効果の判定方法については、豚舎の収容頭数が少ないと臭気が低くなるため、飼育密度等を県内の経営規模に近づけるようにした方がよい。原臭を増やす方策として、清掃しないことも考えられる。</p> <p>○悪臭物質としてアンモニアでモニタリングしているが、実際の臭気は複合臭なのでアンモニアだけで判断するのは難しい。</p> <p>○CFDによるモデルケースの解析を実施することは有効であるが、解析結果を実証することが必要である。</p> <p>○研究成果を普及するため、苦情の有無に関する敷地境界でのデータが必要である。</p> <p>○開放型豚舎の脱臭装置は、臭気を脱臭装置に集めるため、カーテンを閉め切らなければならない。</p> <p>○カーテンを閉め切った場合、夏季の暑熱状況では換気量と豚舎内温度がどうなるか、また豚舎内の温度を下げるためカーテンを開けたときに臭気等を集約できるかが難しい。</p> <p>○冬季は、カーテンを閉めても問題ない。</p> <p>○普及にあたっては、スクラバー方式の場合、規模やコストなどの検討が必要である。</p>		